

令和2年度 入退院調整ルールづくり支援事業 入退院調整状況調査結果報告(ケアマネ調査)

目的

南和地域では、病院から在宅へのシームレスな移行にむけて、介護の必要な方が安心して入退院と在宅療養ができる環境づくりの一環として、平成31年2月に「入退院連携マニュアル」を作成、運用が開始し1年が経過した。

本調査は入退院調整ルールの活用状況を把握し、前年度調査からの比較を行い、病院とケアマネジャー等の連携による効果と課題を把握することを目的に実施する。

概要

方法

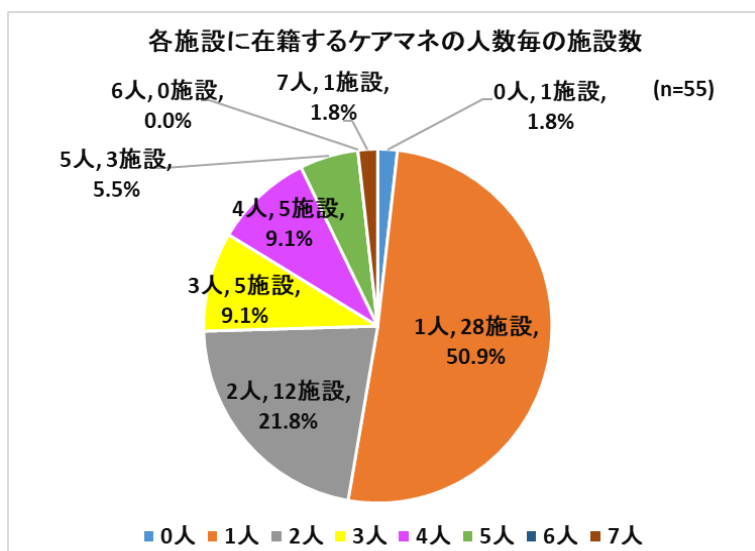
南和地域の事業所のケアマネジャーに調査票(別紙)を用い、担当するケースのうち、令和2年6月1日～30日の1ヵ月間に病院から退院したケースの退院調整の連絡状況と、入院したケースに関する入院時情報提供書の提出等についてアンケート調査を実施。

項目	内容
調査期間	令和2年6月1日～6月30日
調査票回収期間	令和2年7月2日～7月29日
対象事業所	南和地域12市町村 (五條市・吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村) 居宅介護支援事業所 40カ所 小規模多機能型居宅介護支援事業所 3カ所 地域包括支援センター 12カ所 計 55カ所
調査票回答者	対象事業所のケアマネジャー
回答事業所数(回収率)	居宅介護支援事業所等 43カ所 (100%) 地域包括支援センター 12カ所 計 55カ所
ケアマネジャー回答者数	居宅介護事業所等 83人 地域包括支援センター 26人 計 109人

[対象事例がない場合、0件での報告となります]

結果

各施設に在籍するケアマネジャーの人数毎の施設数(令和2年6月30日 現在)



ケアマネジャー数	施設数
0人	1
1人	28
2人	12
3人	5
4人	5
5人	3
6人	0
7人	1
計	55

施設に在籍するケアマネジャーが1人体制の事業所(包括含む)が28施設/55施設(50.9%)と約半数の割合を占めた。

※12月調査:ケアマネジャーが1人体制の事業所(包括含む)が22施設/55施設(40.0%)

1. 担当ケースの概要（令和2年6月30日 現在）

1) 回答のあったケアマネジャー（109人）の担当ケース数

	計	要介護	要支援	総合事業対象者	その他*
現在の担当ケース	3,152	1,918	1,194		40
うち、6/1～6/30に退院したケース	84	62	13	1	8
うち、6/1～6/30に入院したケース	100	76	22		2

* その他：介護保険申請中、区分変更中、未認定等

2) 6/1～6/30 に病院から退院したケースの概要

退院患者の介護度	利用者の居住地	南和地域12市町村	県内	県外	計
要介護		59	2	1	62
要支援		12	1	0	13
総合事業対象者		1	0	0	1
その他*		6	2	0	8
合計		78	5	1	84

* その他：介護保険申請中、区分変更中、未認定等

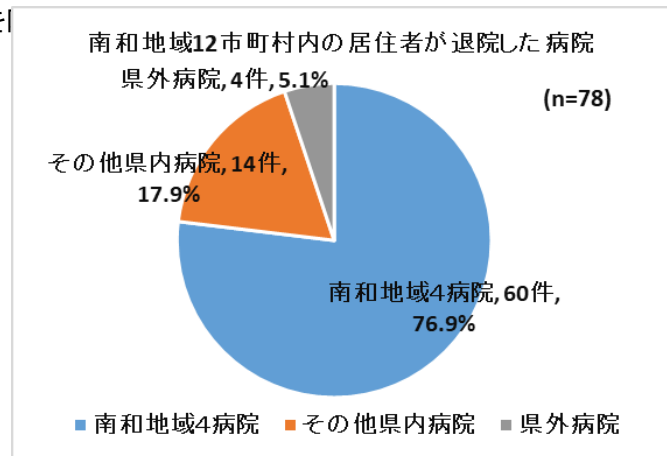
3) 南和地域12市町村内の居住者（78件）が6/1～6/30に退院した病院

※県内市町村居住：5名、県外市町村居住：1名を

南和地域4病院	その他県内病院	県外病院
60	14	4

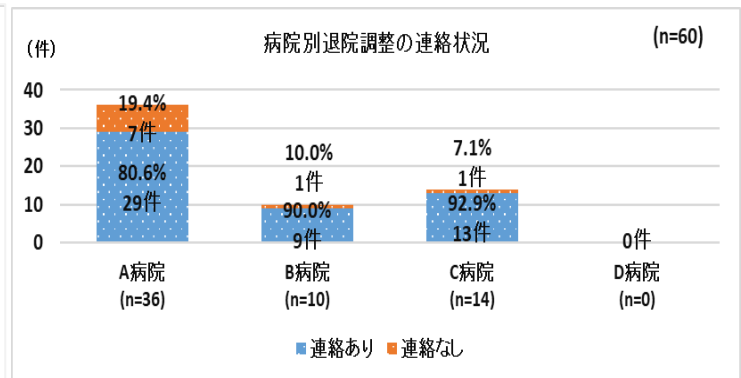
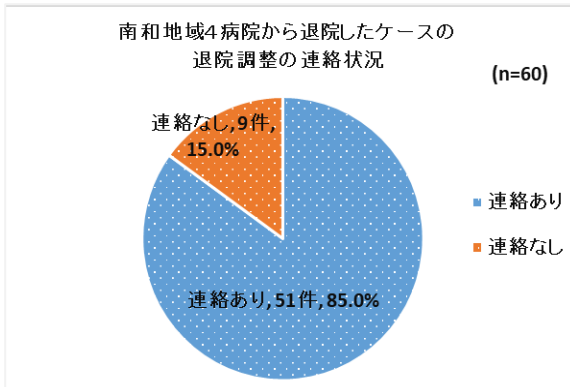
<その他の県内病院の内訳(抜粋)>

奈良県立医科大学附属病院	6
大和橿原病院	2
済生会中和病院	2
済生会御所病院	1
宇陀市立病院	1
秋津鴻池病院	1
他	1



2. 南和地域4病院からの退院調整の連絡状況

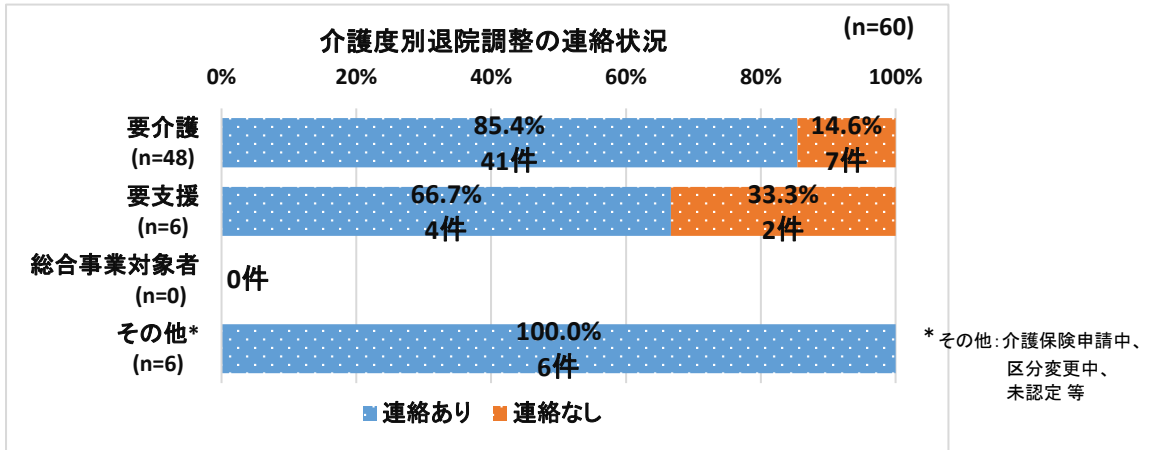
1) 南和地域4病院から退院したケース（60件）の退院調整の連絡状況



退院調整での連絡状況は「連絡あり」が51件/60件（85.0%）であった。

※12月調査：39件/58件（67.2%）

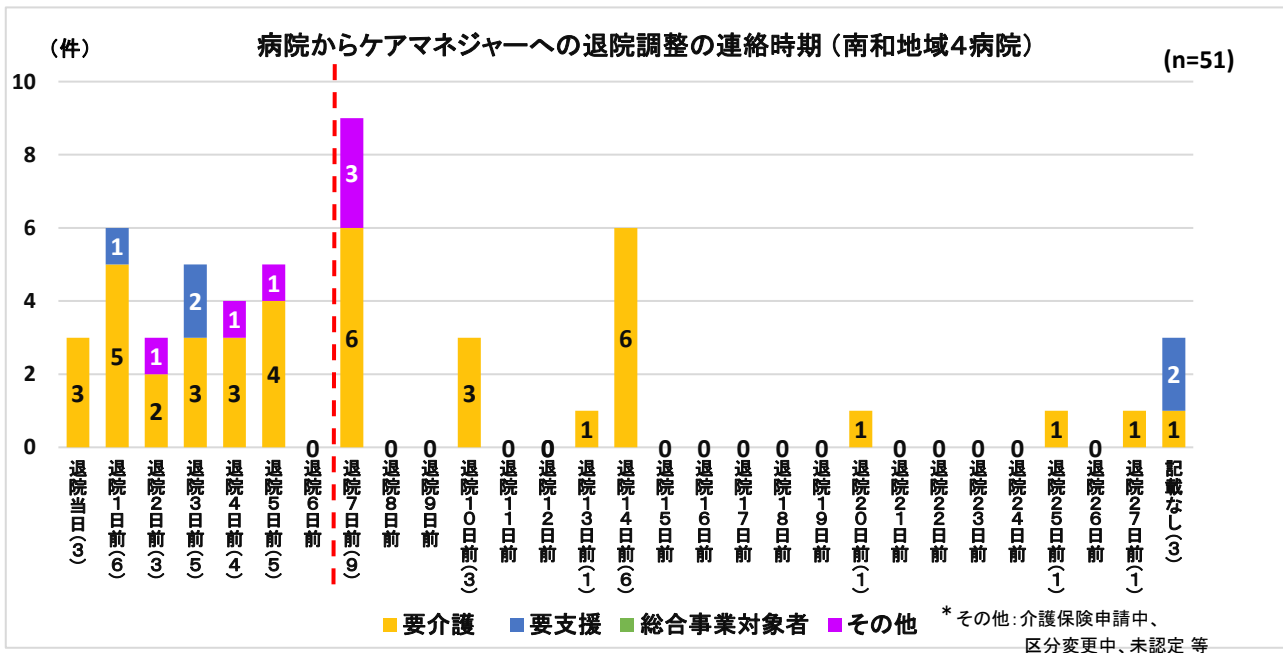
2) 介護度別退院調整の連絡状況



要介護の方(48件)の退院調整の連絡状況は、「連絡あり」 41件 (85.4%)、「連絡なし」 7件 (14.6%)であった。

※12月調査: 「連絡あり」 要介護 26件/37件(70.3%) ・ 要支援 8件/16件(50.0%)

4) 病院からケアマネジャーへの退院調整の連絡時期



退院調整に必要な期間とした「退院7日以上前」にケアマネジャーに連絡があったのは25件/51件 (49.0%)。他圏域で運用されている「退院5日以上前」は 30件/51件 (58.8%)。

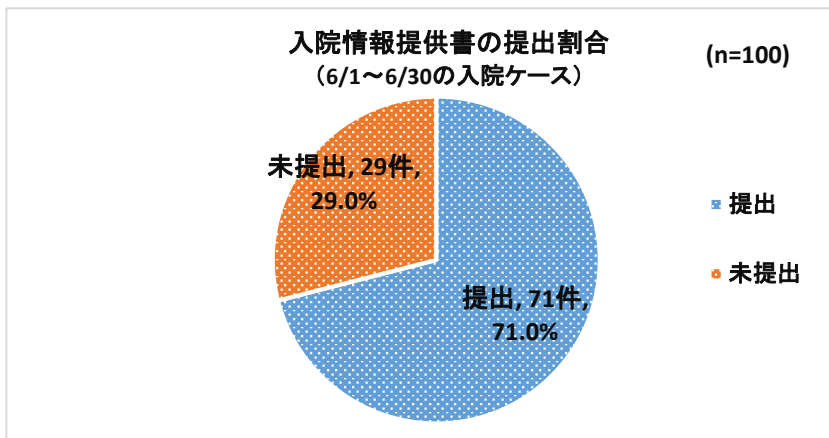
※12月調査: 7日以上前: 19件/39件 (48.7%)、5日以上前: 22件/39件 (56.4%)

◆ 退院調整に問題があった場合の理由 (複数回答可) ◆ ... 5市町村回答

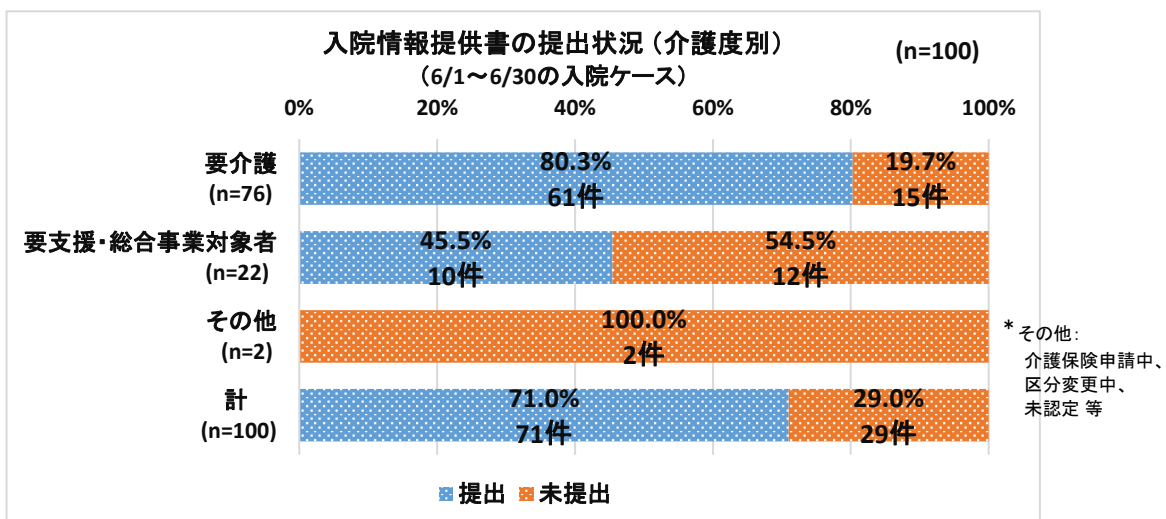
- 1.調整できる時間が少ない 3件
- 2.看護サマリー等の患者に関する情報提供がない 0件
- 3.提供された情報に必要な内容が不足していた 1件
- 4.病院と本人・家族との意見に相違があった 2件
 記述: { 家族は、もう少し入院して欲しかったが、本人が急に退院を強く希望し、そのまま退院となった。 }
- 5.その他 3件
 記述: { 入居施設に連絡 }

3. ケアマネジャーから病院への入院情報提供書の提出状況

1) 入院時情報提供書の提出割合 (6/1~6/30 の入院ケース 100件)



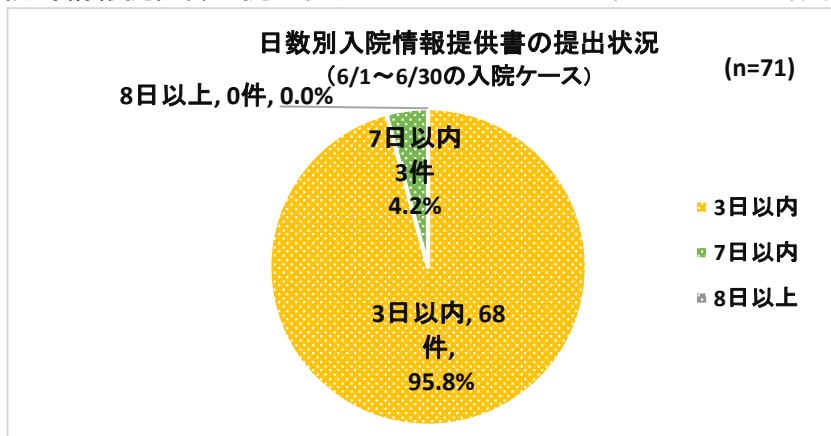
2) 介護度別入院時情報提供書の提出状況 (6/1~6/30 の入院ケース 100件)



要介護認定を受けている患者の入院では、入院情報提供書は61件/76件 (80.3%) 提出されていた。

※12月調査: 58件/70件 (82.9%)

3) 日数別入院時情報提供書の提出状況 (6/1~6/30 の入院ケース 100件中、「提出」71件)



入院情報提供書の提出があった71件のうち、68件 (95.8%) が3日以内に提出されており、7日以内の提出も含めて、71件全て (100%) が7日以内の提出となった。

※12月調査: 3日以内 66件/77件 (85.7%)、7日以内も含めて 73件/77件 (94.8%)

◆ 病院へ入院時、入院情報提供書を提出できなかった理由（ケース毎）◆ … 7市町村・29件

＜病院と直接連絡を行った＞ …4件

- ・プラン届出書は出しているが、実際プランは動いておらず状況もはっきりと分からなかったため。看護師にはその旨伝えている。
- ・前回入退院から2週間経っておらず、同様の病状で入院。病棟と電話にて連携。
- ・6月22日に新規で介護認定を申請。翌日6月23日に受診し、そのまま入院となったことにより、情報提供できる程の情報がなかったため、地域医療連携室の担当にTELにて伝えられるだけの情報を送ることとした。
- ・県外の病院で入院期間が短く頻繁に電話連絡による情報の共有を図ったため提供書は不要であった。

＜病院が患者情報を把握している＞ …5件

- ・前回の入院から今回の入院の期間が短かった。前回は情報提供した。
- ・末期がんですでに入院中のため。
- ・入院時情報はすでに病院が把握されているため、また入院情報依頼がなかった。
- ・入退院を繰り返しており、前回入院時と情報内容に変化がなかったため。
- ・同一月内で2回目の入院となり、状態が大きく変わっていなければ提出不要と確認をとった為。

＜入院期間が短い＞ …4件

- ・入院前から1週間の入院と決まっており、情報提供書を作成することを失念していた。
- ・3日間のみ医大での検査入院の為未提出。
- ・入院期間が1週間といわれたため。
- ・入院後7日で他病院へ転院された。

＜その他＞ …16件

- ・プラン届出はしているが稼働しておらず、情報が古くなるため提供しなかった。
- ・サービス利用に至っていなかったため。
- ・入退院を繰り返し手が回らなかった。
- ・レスパイト入院であったため。
- ・要支援の方については情報提供書が必要だと認識していなかった。
- ・緊急搬送されたため。
- ・新型コロナウイルス感染症疑いで感染病棟に入院したため。
- ・入院されたかたが、これまで担当ではない為情報がなかった。
- ・病院側から提供書の提出を求められなかった為。
- ・入院時に連絡がなく退院時にも連絡がなかった。
- ・県外の病院へ入院され病院からの提出希望がなかった為。

4. 自由意見

4-1. 今回の新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、入退院調整等で困ったこと

<面会ができないため、状況把握が困難> …18件

- ・病院での面会ができずアセスメントが遅れた。
- ・病院への面会ができず退院調整も電話のみとなってしまう状況把握が難しかった。
- ・連絡は常にもらっていたが、利用者の状態を確認できなかった。
- ・退院するまで本人と会えなかったため、本人の意向を聞くことができず、家族に聞かせてもらった。
- ・ターミナルケアの方の調整で、ご本人に聞き取りがほとんどできず、退院され、退院後に主訴等をきくこととなった。迅速な対応が必要であったが、後手後手にまわってしまった。
- ・ご家族さんも面会ができず、ご本人さんの状況がわからないため、退院後の生活に不安を感じていた。

<退院後の環境整備、サービスの調整が困難> …4件

- ・通所サービスは2週間利用不可となり、その間にレベル低下しないか心配した。
- ・退院後すぐデイ・ショートを利用できなかった。
- ・新規申請中、入院となり、病院に調査に行ってもらえず、認定結果が遅れた。
- ・面会制限により利用者の動作確認ができない。退院カンファ時に理学療法士から動作説明があったが、自宅環境に合わせたものではなかったため、退院後に環境を整えなおすのに時間を要した。
- ・新規のケースでは独居で家族がいずれも遠方というパターンで退院にさしあたり浴室の環境整備が必要と病院側から依頼があったが、浴室の状態を確認する手立てがなく、本人と病院側と直に面接して詳細を詰められなかったこと。

<関係機関との調整が困難> …3件

- ・事業所の受け入れ体制も日々変化していく中で、病院と連携しながら調整するのは困難だった。
- ・直接出向いたり、面会ができないため、他の方法で連携をとることを考えること。
- ・持参、面会ができなかったため、土日に入院となった場合、連携室が休みなので、事前連絡できずに送付しなくてはならなかった。

<退院カンファレンスが開催しにくい> …6件

- ・カンファレンスの場所が、相談室ではなく、デイルームであったため、話がしづらかった。
- ・6月～は少人数で退院時ケア会議して下さっています。それまでは、ご本人との面会が困難で把握しにくかったです。遠方の家族さんとの面会が困難だった。
- ・退院時カンファレンスに十分な時間が取れず電話でのやり取りが多かった
- ・面会や担当看護師に話を聞けなかった
- ・入院時情報提供、退院時のサマリーのやりとりをすべてFAXで行った。特に大きな問題はなかったが、実際に聞くことができず、踏み込んで調整が行い難いと感じた。
- ・病院に立ち寄ることが出来なくなりカンファレンス開催が困難になり退院調整しにくくなると困る

<連携が密にとれない> …2件

- ・入院時情報提供書を提出しましたが、退院のお知らせがなく、現状を聞かせてもらうために電話をするとすでに退院されていました。
- ・入院時情報提供書は即日を送付し、退院時カンファレンスを依頼したが、退院の連絡も無く自宅へ退院されていた。予想以上に回復が早く入院継続の必要性が無くなったための退院と思われるが、コロナの関係もあり退院前カンファレンスまでは開催しなくても、看護サマリーなどはいただきたいので、退院の一報は病院側から欲しい。

4-2. 4-1の困ったことを受けて、行っている対策、配慮していること

<電話連絡を密にとる> …6件

- ・できるだけ電話で詳しく身体状況や機能について聞くようにした。地域連携室と何度も連絡を取り合った。
- ・何度も電話で打ち合わせした、家族とも電話だったので細かな部分まで時間をかけた。
- ・可能な限り、病棟の看護師や地域連携室との連携を図る。(電話等で状況等聞き取りを行っておく)
- ・入院中に本人と会ったり、病院側と話ができなくても、電話連絡を密にすること。またFAXを使うことで連携できると感じた。

<家族、関係機関から状況把握に努める> …7件

- ・家族に数回会って本人を想像した。
- ・家族、病院との情報交換など連絡をこまめにしていた。
- ・病棟の看護師と連携をとり、本人の状態、退院後の生活について確認している。
- ・サービス担当者の照会を利用し、文章での情報交換をしている。
- ・担当と緊密に連携を図る
- ・相談員から聞く・病棟看護師から聞く・家族から聞く等している
- ・ご家族や病棟スタッフを通しての確認。退院時までには最低限のサービス調整し、退院後に早期対応。

<その他の工夫をして退院調整している> …5件

- ・支援事業所訪問時に本人の動作確認をし、デモで試して調整している。
- ・調整前に確認事項をまとめておくこと、事前に家族へ説明し、了承を得るよう努めた。
- ・各事業所の状況、体制をよく話し合い、病院や家族に伝えながら話し合いを進めていった。
- ・ショートは2週間個室利用を依頼した。デイは2週間利用保留となった。
- ・zoomやLINE電話等を活用しての面会。

<その他> …3件

- ・家族、病院、本人との方針、意見のすり合わせがしっかりできるようにしたい。
- ・退院時の状況や入院からの経過、今後の留意点などは退院後に本人から話を伺い、全体像を把握したが病院側からの情報提供も欲しい。
- ・連携室と連絡が取れるよう、入院後3日以内の平日の間に情報提供書を提出するようにしている。

4-3. 今回の新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえて、平時から準備しておくべき事

<日頃からの感染予防対策、感染対策品の備蓄> …11件

- ・スタンダードプリコーションの再確認、徹底。
- ・ドアノブやスイッチ等の掃除。
- ・サージカルマスクや手指消毒用アルコール、エプロン、食料品などをストックしておく。
- ・新型コロナウイルス感染症以外の感染症にも留意し、普段から予防する。

<利用者・自己の体調管理、アセスメントを徹底する> …7件

- ・日頃からモニタリング、アセスメントを充実させる。
- ・自身の感染予防・体調管理に努めるとともに、利用者の体調観察(訪問時等)に努める。
- ・感染症に関わらずアセスメントをしっかり行う。

<本人、家族、関係機関と普段から連携をとる> …7件

- ・入退院時の意向(早期の在宅復帰等)を日頃から確認しておく。
- ・家族との連携を平時からとっておくこと。
- ・担当利用者や家族と日ごろから連絡について話をしておく。
- ・現場担当者との日頃からの連携や信頼関係
- ・利用者の行動範囲、交友関係を把握しておく
- ・他事業所や病院など医療機関との情報共有によりそれぞれの動きや対策などについて知っておく。

<非接触での連携方法の確保> …7件

- ・カンファレンス等病院サイドとケアマネ事業所とオンライン会議できる体制の整備。
- ・メールやzoomアプリなどの活用方法の普及
- ・電話や書類等で対面を避けたやり取りができるように準備が必要だった。
- ・通信システムの整備を公的に行ってほしい。セキュリティの高いシステムの構築が必要。

<記録、マニュアルの整備> …5件

- ・緊急時対応ファイルの整備。
- ・感染が疑われる場合や、感染への不安があるといったケースについて。どのタイミングでどこに相談すればよいか、といった対処の方法を確認しておく。
- ・利用者が感染した際に備えて、必要事項を速やかに情報提供できるよう、平時からの備えが必要と思われる。
- ・利用者さんのケース記録とは別に、支援者としていつどの順番で訪問をしたのかなどの業務記録。(自身が感染したとき用に)
- ・濃厚接触者(仕事上で)となったときの対応について。
- ・自分だけではなく、家族の健康管理、三密を防ぐため、ゾーニングをどうするか考えて、行動しなければならない。

<その他> …3件

- ・ケアマネが担当の利用者にPCR検査を受けさせるために連れて行き、2週間隔離になり、考えさせられた。
- ・初回のFAX送信は誤送信の不安があるので事前に確認する。
- ・コロナに気をとられ、他の疾患を見つけるのが遅くならないように。

5. まとめ

- ・病院からの退院調整の連絡は85.0%であった。
- ・入院時情報提供書の提出は71.0%であり、令和元年6月調査時より提出率の低下が続いている。
- ・入院時に入院情報提供書を提出できなかった理由として、「病院と電話などで直接連絡を行った」「病院が患者情報を把握している」「入院期間が短い」などの意見があった。
- ・病院からケアマネジャーへの退院連絡は退院7日以上前の連絡は49.0%、3日前～退院当日の連絡が33.3%であった。
- ・新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、困ったことは「面会ができないため、状況把握が困難」「退院後の環境整備、サービス調整が困難」「連携が密にとれない」などがあった。
- ・困ったことの対策として「電話連絡を密にとる」「家族、関係機関から状況把握に努める」などがあった。

実施状況の経過	平成30年 6月調査	平成30年 12月調査	令和元年 6月調査	令和元年 12月調査	令和2年 6月調査
病院からの 退院調整の連絡状況	39件 59.1%	41件 63.1%	51件 83.6%	39件 67.2%	51件 85.0%
ケアマネジャーから病院への 入院時情報提供書の提出	72件 69.9%	75件 67.6%	72件 87.0%	77件 72.0%	71件 71.0%